

小论文例文总结

意見和根据的不同：

意見：テレビは日本語学習に役に立つと思う。

論拠：例 ・聴き取りの学習ができる。

・日本語はいろいろな場面で話し方が違うことがわかる。

・ドラマを見ると、どんなときにどんな言い方をするかわかる。

・ニュース番組を見ると、ニュース用語が学習できる。

・録画しておけば、いつでも好きなときに繰り返し見ることができる。

・字幕のある番組では二つの言語を比べることができる。

陈述句转化为意见:

例 このテレビ番組はよくないです。(と思う) → よくないと思う。

1. 事故の原因は運転手の不注意です。→ 不注意だと考えられる。
(~と考えられる)

2. このことは話し合いで解決します。→ 解決したほうがいい。
(~たほうがいい)

3. このレポートには問題点が多いです。→ 多いと思う。
(~と思う)

4. この計画はお金がかかりすぎます。→ かかりすぎるのではないか。
(~のではないか)

5. 子どもは大人よりアイデアが豊かです。→ 豊かとは言えるのではないか。
(~と言えるのではないか)

6. 政府は年金生活者*の現実をしっかり見ます。→ 見てほしい。
(~てほしい)

*年金生活者 pensioner 靠养老金生活的人 연금생활자

7. 今後、少子化の問題はますます大きくなります。→ 大きくなるだろう。

例文:

「バリアフリー」という言葉が最近よく使われる。例えば、バリアフリー建築、バリアフリー住宅、バリアフリー車、バリアフリー商品、バリアフリーの街づくりなど、いろいろな方面でこの言葉が見られるようになった。

「バリアフリー」というのは、英語の barrier (障壁) と free (~がない、~を除く) を合わせた言葉で、障壁を取り除いてどのような人でも安心して暮らせるようにした環境を言う。もとは建築用語で、身体に障害を持っている人や高齢者のために段差をなくすとか、手すりをつけるとか、使いやすい台所にする、などのことを言うが、最近では、より広い意味で用いられるようになっている。つまり、物理的なバリアだけでなく、制度や偏見のバリアも除こうという意味で使われることが多い。

では、現代社会にはどんなバリアがあるか。また、今後どんなバリアフリーが必要だろうか。本論文では現在のバリアの実情を整理して、今後のバリアフリーの方向を考えてみたい。

今、文章を書くのは苦手だという人が多い。特に若い人はあまり文章を書きたがらない。しかし、学校教育の中で「書く練習」をもっとするべきだとわたしは思う。書くことによってものを考えるようになるからだ。教育学者田中哲治も『書くことは考えること』(ABC社)という本の中で、書く力をつけることは考える訓練になる。子どものときからやったほうが良いと主張している。

日本人の中でも日本語は難しい言語なのだと思っている人がいる。本当にそうだろうか。どの国の言葉にもそれぞれの特徴があり、その特徴が違うだけだと思う。アハマド・ムーサという日本語学者も『△△について』(〇〇社)の中で、彼が日本語を独学*で勉強し始めたときはこんなわかりにくい言語があるのかと、頭がズキズキしたということだが、同じ人間である日本人が使っているのだから、エジプト人の私にもできるはずだ。よし、がんばってみようと思いなおしたと述べている。

*独学 self-study 自学 独学